

花壇づくりのヒント 12か月

11月 落葉で堆肥づくり

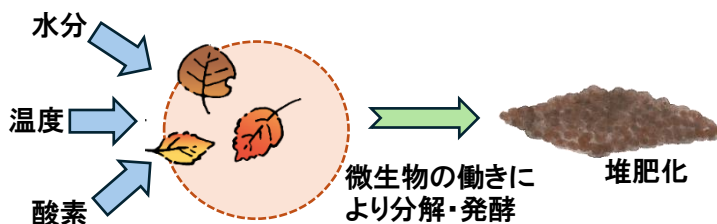
秋が深まり落葉の季節になりました。自然の森の中などでは、地面に落ちた葉は積み重なり、生き物のすみかになったり、長い時間をかけて下の層から分解され、他の植物などが育つ養分として使われる『循環』が成り立っています。

ただ、ご自宅では近所や道路への舞い散りや害虫の発生などを考えると、長い間放置できず落葉掃除が欠かせません。今回はそんな落葉の活用方法、ご自宅でできる堆肥づくりをご紹介します。

1. 落葉が堆肥になるには

落葉が堆肥になるためには、『微生物』の活動により分解、発酵が進むことが重要です。

微生物が活動しやすい適度な水分・温度・酸素がそろえば、落葉が堆肥に変化していきます。



2. 使用する落葉の種類

落葉堆肥を作るには、水分、樹脂分が少なく分解、発酵の進みやすい広葉落葉樹の葉が適しています。固く肉厚で、水分、樹脂分の多い常緑樹や針葉樹の葉は堆肥化するのに時間がかかりあまり適していません。

【適した落葉】



ケヤキ サクラ ハナミズキ クヌギ など

【適さない落葉】



クスノキ モチノキ イチョウ マツ など

3. 堆肥枠（囲い）の準備

ご自宅で堆肥づくりを行う際は、害虫や臭いの発生を抑えるため堆肥枠（囲い）を利用します。堆肥枠を使うことで分解、発酵を促すための※発酵熱が効率的に高まり、堆肥化を早める効果もあります。

※発酵熱：微生物が分解、発酵を進める活動に伴い発生する熱

（1）ベニヤ板や角材など、木材を使った堆肥枠

ホームセンターなどで販売している木材を組み立て、囲いを作りその中に落葉を貯めていきます。

塗装された合板や防腐処理された角材などを使うと囲いが腐らず長く持ちます。微生物の活動を活性化させるために、風通し、水はけの良い乾いた場所に設置し、底に黒土を5cm程度敷いた後、落葉を入れていきます。

ブルーシートやトタンなどで蓋をしておくと雨を防ぎ、発酵が促進されます。

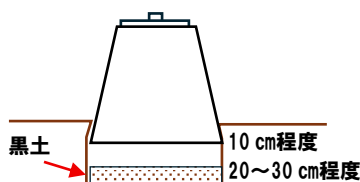


（2）設置型の樹脂製※コンポスターや大型ポリ容器 ※コンポスター：堆肥（コンポスト）を作る容器

バケツをひっくり返したような形の専用コンポスターが販売されています。地面に接する面は底が無く、上にフタがついています。

風通し、水はけの良い場所に20～30cm程度の穴を掘り、コンポスターは10cmぐらいの深さの位置に設置します。底に黒土を5cm程度敷いた後落葉を入れていきます。

ベランダなどでは、ドリルなどで側面に数か所、底部にも数か所（計20か所程度）穴を開けて通気性、排水性を確保した大型のポリ容器でも代用できます。



底、側面にドリルで穴を開ける

(3) 段ボール

少量であれば段ボールを活用することもできます。

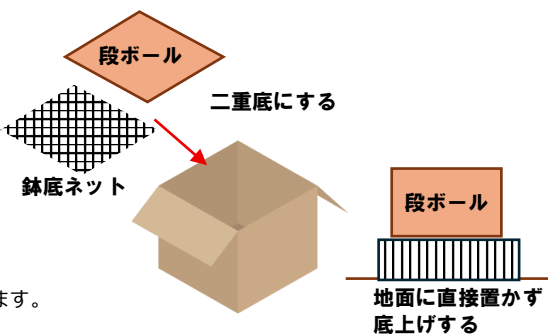
段ボールの底をガムテープで固定し、底が抜けないように段ボールを切ったものや鉢底ネットを敷き 2 重底にします。

黒土を底に敷いた後、落葉を入れていきます。

風通しが良く、雨の当たらないところに、角材やレンガ、すのこ、トレーなどで地面から底上げして設置します。

名古屋市公式 WEB サイトにもダンボールコンポストの作り方が紹介されています。

『段ボールコンポスト』をサイト内検索してみてください。



4. 発酵促進材について

発酵を促すため、微生物の栄養分を用意します。米ぬかや油かす、または市販の発酵促進剤がおすすめです。

5. 作り方

(1) 堆肥枠やコンポスターの中に 20 cm 程落葉を入れ、落葉全体が湿る程度の水をかけながら踏み固めます。

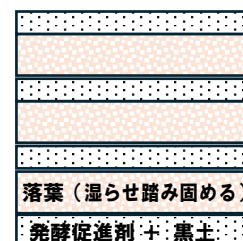
(2) 踏み固めた落葉の上に米ぬかや発酵促進剤と黒土を一層敷き詰めます。

(3) (1)、(2) を繰り返し、層を積み重ねていきます。

(4) 積み重ね終わったら全体がしっとり湿る程度水をかけ、ブルーシートやフタをします。

※水分が多すぎると腐敗するので注意。

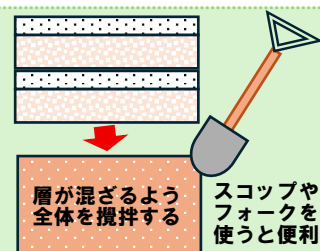
(5) 1 か月ぐらい経ったら※『切り返し』を行います。



～堆肥づくりの重要作業『切り返し』とは？～

落葉の発酵が進んで微生物の活動が盛んになり温度が上がると、積んである落ち葉の中の酸素が無くなり、微生物が死んでしまいます。定期的に落ち葉の上下をひっくり返し、全体を攪拌して空気を入れ替える作業をおこないます。

この作業を『切り返し』と言い、堆肥づくりの重要な作業になります。



(6) その後、3～4 か月毎に『切り返し』を行います。

(7) 『切り返し』行いながら 200 日から 1 年ぐらい経過し、落葉が黒色でボロボロ崩れ原型がほとんどなくなったら完成です。嫌な臭いがせず、土のような匂いになります。



市販の腐葉土のような状態が目安

6. 使い方

落葉堆肥は肥料分は多くないので、市販の腐葉土などと同様、土壌改良材として使います。土に混ぜ込んで保水性や通気性を改善したり、表面に敷いてマルチング材として活用できます。

7. 注意点

(1) 生ごみは入れない。※落葉と生ごみでは分解、発酵速度が違い、混ぜると上手く発酵せず、腐敗の原因になります。落葉堆肥を作る時は、落葉のみを入れてください。

(2) 作成中に発生する白カビは発酵が進んでいる証拠です。取り除かなくても大丈夫です。

(3) 発酵過程でドブのようなニオイがしたら、腐敗が進んでいる証拠です。通気性が悪かったり、水分が多い可能性があります。『切り返し』をしっかり行い空気を循環させ、雨水などが入り水分過多になっていないかを確認し、全体がしっとり湿る程度の適度な湿度を保ちましょう。

(4) 未熟な落葉堆肥を土に混ぜると、分解、発酵に土中の窒素が使われ、肥料分が不足したり、上手く発酵せず腐敗して根の生長を阻害します。土壌改良には完熟した堆肥のみを使いましょう。



発酵過程で発生する白カビは順調な状態

★次回 12 月は『花壇をデザインしてみよう』をご紹介します。

※資料は個人でのご活用に留めていただけますよう、よろしくお願いいたします。